

パナソニックとニューロスペースが睡眠改善ソリューションの共同開発を開始 ～ICT・IoTと最先端の睡眠科学技術を融合し、健康経営を促進～

パナソニック ソリューションテクノロジー株式会社(東京都港区 代表取締役社長 小河 寿 以下、パナソニック)と、株式会社ニューロスペース(東京都千代田区 代表取締役社長 小林 孝徳 以下、ニューロスペース)は、健康経営※1支援を目的とした睡眠改善ソリューションの共同開発を開始しました。

現代人の多くが睡眠障害を抱えていると言われていて、昨今の潮流である健康経営を推進する企業においても、従業員の睡眠障害が原因で引き起こされる体調不良が、休職や業務中の生産性の低下につながるなど、睡眠障害は看過できない問題になっています。

こうした状況をうけ両社では、パナソニックがもつセンサー・インテグレーションやビッグデータ分析、教育ICTの技術と、ニューロスペースの睡眠改善プログラム「Somnie」(ソムニエ)とを融合した睡眠改善ソリューションの開発を開始しました。「Somnie」は、ニューロスペースがもつ最先端の睡眠科学技術と、人間の睡眠状態を収集した睡眠ビッグデータにもとづき開発されたプログラムです※2。

まずは、ニューロスペースの睡眠改善プログラムをベースにしたeラーニングコンテンツを2017年4月に商品化します。続いて、パナソニックが着衣型生体センサーで取得したデータとニューロスペースの脳波センサーで取得した睡眠情報を使って、一人ひとりに合った睡眠改善指導を行うコンサルティングサービスなども展開していく予定です。

両社の共創により、ICT・IoTのツールを活用して、最先端の睡眠科学技術と睡眠ビッグデータにもとづいた睡眠改善の実践的アドバイスを、より多くの企業の従業員に届けることができます。決して、一過性の改善効果だけではなく、従業員自身が睡眠改善に向けた取り組みを継続・反復する仕組みによって、定着につなげるのが目的です。

パナソニックとニューロスペースは、両社の強みを活かしたソリューションで、企業の健康経営の推進に貢献します。

※1: 健康経営は、NPO法人 健康経営研究会の登録商標です。

※2: ニューロスペースは、筑波大学の研究機関である国際統合睡眠医科学研究機構と提携しています。同機構は、文部科学省の「世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)2012年度公募において、筑波大学の提案が採択されたことを受け設置されました。睡眠覚醒機構の解明を目指し、基礎から臨床までを網羅する世界トップレベルの睡眠医科学研究拠点の最先端の技術とデータが「Somnie」に組み込まれています。

●パナソニックの「健康経営支援ソリューション」

パナソニックの「健康経営支援ソリューション」は、IoTやクラウドなどの技術を活用し、今まで見えなかった心と体の状態をリアルタイムに見える化することで、運動や睡眠など生活習慣の改善に向けた「PDCA」サイクルの取り組みを支援します。従業員自身が自分の体の変化、状態を認識することで、健康維持に向けた自主変容につなげ、取り組みを習慣化・継続できます。

●ニューロスペースの法人向け睡眠改善プログラム「Somnie」および睡眠脳波センサー

「Somnie」は、ニューロスペースが筑波大学および都内医療機関と連携して開発した、法人向けの睡眠改善プログラムです。これまで、外食チェーンの株式会社吉野家ホールディングスを始め、総合エンターテインメント企業の株式会社ディー・エヌ・エー、総合物流企業のSBSホールディングス株式会社など、多くの企業で採用され、従業員の睡眠改善の実現に寄与してきました。ニューロスペースでは、各専門機関からのフィードバック結果を定期的に「Somnie」に反映することで、最新かつお客様ごとに最適化された睡眠ソリューションのコンテンツ提供が可能です。このほか、ニューロスペースが独自に開発した脳波センサーを使うと、睡眠中の脳波の計測結果をもとに、睡眠状態を簡易的に評価することができます。



以上

プレスリリースの内容は発表時のものです。

商品の販売終了や、組織の変更等により、最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。